

一般心理学編 第1部

全13巻

監修●静岡大学教授 岡野恒也
■時間:各巻 約20分

1 知

覚

〈指導〉 東京都立大学 加藤義明
●白黒

この作品は、人の「知覚」の特徴を明らかにするため、(1)形の知覚(2)運動の知覚(3)社会的知覚から成っている。物が存在すれば、それはいつでも見えるという考え方は誤りである。これはカモフラージュということを考えて見れば明らかである。形として背景から浮き上がって見える刺激を「図」といい、背景となった刺激を「地」というが、図として形をなすためには刺激がゲシュタルトの法則に合致することが必要である。

ゲシュタルトの法則には、周知のように、(a)近接(b)閉鎖(c)類同(d)よい連続などの要因がある。これらについて、作品は、細かい解説を行う。また、刺激の布置が特定なものになると、錯視の現象が現れる。錯視のうち、ここではミュラー、リャーザンダー、ヘンリング、の錯視について考察する。

2 動物の学習

〈指導〉 筑波大学 藤田 統
牧野順四郎
●白黒

この作品は、基本的な学習の様子を知るために、(1)迷路学習(2)てこ押し学習(3)回避学習(4)弁別学習(5)問題解決学習の5項目によって組み立てられている。迷路学習では、迷路のゴールには針をおいてあるが、ゴールに達するまで、何回もエラーをしたり、また、探索行動に移ったりして、ゴールに到着して欲求の満足によって学習が生ずる。このことはソーンダイクによって効果法則と呼ばれるものである。てこ押し学習ではスキナーが考案した箱の中で、てこを押すことによって餌が出るようになってはいるが、てこを押しても餌が出ないようにすると期待が裏切られ、いらいらするようになり、ついにはてこ押しをやめる。これも1つの学習である。これによって学習の基本は2つのメカニズムからできていることを理解することができる。

3 性

格

〈指導〉 東京都立大学 加藤義明
●白黒

この作品は、人の性格を理解するために、「性格のとらえ方」「性格の形式」「性格の診断」という3つの領域に分けて話が進められている。人の容姿が一人一人異なるように、性格も十人十色である。ここでは相貌学、骨相学、筆跡学など歴史的な性格研究をながめ、ついで科学的研究のいとぐちを開いた、クレッチマーの理論に基づく体格と性格の関係が説明され、更に、現在では性格の研究がどんな側面から行われているかを、特性論と類型論の解説を行うことによって示される。

性格の形成については、遺伝的な要因と環境的な要因によっているわけであるが、遺伝の要因については一卵性双生児の行動や知能の類似を例にして説明が行われ、更に家系研究の紹介も行われる。

4 知

能

〈指導〉 静岡大学 岡野恒也
●白黒

この作品は、知能の本質である場面の変化に適応的な行動を取り得る能力は人間以外の動物にもあることを類人猿を中心に、他の動物や人間の幼児を比較しながら、知能の根本的なものは何かについて説明している。ケーラーの有名な道具使用の実験がチンパンジーによって行われる。チンパンジーは手の届かない所に置かれたバナナを取るのに、棒を利用して引き寄せるだけでなく、麻袋ではたき寄せることもできる。また、高いところにつるされたバナナを取るのに箱を1つ、2つ、3つ、と積むこともできる。チンパンジーが実際にどうやってこういう道具を使うかが示され、更にそういう道具を別の場面に応用して利用する例が描かれる。

5 感

情

〈指導〉 一橋大学 中村恵一

●白黒

この作品は、7つの内容から組み立てられている。日常生活における感情表現、想像力を駆使して表現する俳優の演技としての表情表現、定位—探索反応と反射的な意味を持つおどろきの反応、表情の発達として赤ん坊の表情をみるとともに、対象に対する特定の態度の発達過程を明らかにするための実験。

社会生活の中で形作られる表情として、デパートの店員の職業的な表情、感情の一時的な高まりとして見られるお祭りの昂揚した場面の表情、禅寺における僧侶の座禅を組む静かな表情。伝統芸術の中に定着した、日常生活の表情とも現代演劇の表現とも異なる独特の表現の型を明らかにするため、歌舞伎十八番の勧進帳の舞台から弁慶の表情を追う。

6 催

眠

〈指導〉 筑波大学 大野清志

●白黒

催眠法といわれる一定の方法で、意図的、人為的にひきおこされる特殊な状態、およびそれをもとにして生ずる心理、生理的な一連の現象をさして催眠という言葉が用いられる。この作品は、催眠中に現れる現象を見ながら、基礎的な催眠の知識が得られるように構成されている。

催眠現象のうちの特徴的なものには、被暗示性とその前進、運動硬直、催眠健忘、年齢退行、覚醒、催眠行動といったものが上げられるが、これらの現象を、各特徴ごとに分類しながら、それぞれの変化を記録し、催眠行動という非現実的な行動の持つ意義を解明していくもので、将来この方法が、どんな分野で活用されていくかについても話を進めている。

7 ニホンザルの行動

〈指導〉 静岡大学 岡野恒也
大阪大学 糸魚川直祐

●カラー

この作品は、ニホンザルの実験室における行動の研究と、野外における行動の研究が並行して進められている。まず、野生のサルを観察可能な場に誘い出すために、「餌づけ」をし、1頭ずつ「個体識別」をして、その行動を詳細に観察し、記録する。しかし、顔や体の特徴で識別することには限界があるので、サルを捕獲して、顔のきめられた場所に「入れ墨」をして識別することにした。

これらの場面がくわしく描かれ、個体識別が進むにつれ、サルの群の社会構造、特にその中での血縁関係、群と群との関係なども明らかになった。……オスは3歳位いで群の周辺に出て、オスだけのグループをつくり、メスは群の中心にとどまり、やがて成熟して交尾し、母親となる……。

8 思考の働き

〈指導〉 東京工業大学 坂元 昂
国立教育研究所 永野重史

●白黒

この作品は、思考に関係した過程として、(1)問題解決の型、(2)問題解決における機能固着、(3)概念学習、(4)思考のストラテジー、(5)子供の空間概念、(6)推移率、などを取り上げて解説している。問題解決には、大きく分けると、試行錯誤型と、見通し型、の二つがある。難問に出合ったとき、何度も失敗しては、やり直しながら徐々に正しい解決ができるようになっていく場合と、系統的に頭の中でよく考えて、それぞれの場面の構造を見通し、正しい解決を発見する場合がある。ここでは、ハノイの塔ゲームを通して、こうした二つの型があることを描く。推移率については、 $A > B$ で、 $B > C$ という条件が示されれば、 A と C の関係は直接示さなくても $A > C$ ということが理解される。これが推移率である。

9 精神の発達

〈指導〉 東京学芸大学 河井芳文
東北大学 松野 豊

●白黒

他の高等動物に比べて、人間は、はるかに無力な状態で生まれてくるが、やがて独自の過程を経て、高度な精神機能を完成する。この作品は、精神発達の過程を内面化の過程としてとらえていくつかの段階に分けてその特徴を明らかにしている。精神発達の過程を6つの特徴的な、(1)反射の段階（新生児の特徴）、(2)動作認識の段階、(3)心像の形成、(4)非保存の段階、(5)具体的思考の段階、(6)内面化の完成、という段階に分けて進められる。まず、人間は他の動物に比べると1年早く生まれてきているのだという、ホルトマン説があるように、新生児には特徴的ないくつかの行動が目立つ。彼らはきわめて無力であるが、基本的な反射はすでに備わっていて、それによって環境に適応している。ところが、動物の名ごりとししか考えられないような役に立たない原始的な反射も保存している。

10 行 動 の 異 常

〈指導〉 神戸大学 岡田幸夫
子ども病院 花田雅憲

●白黒

この作品は、異常な行動とは何か、それはどのような態度で研究され、治療されなければならないかについて、ほかの子供と違った行動を示す子供を例にとって、その行動の異常が、どのような過程を経て診断され、治療されていくかを描いている。自分では意識していなくても、その行動を観察すると、他のものと違った行動をとる子供がいる。こういう異常に気づいた親は、専門の病院に診断と治療を求めてやって来る。

病院ではまず、母親の訴えを十分に聞き取り、ついで子供をプレイルームに入れて自由に遊ばせ、その行動を観察する。このように、母親との分離の悪い子と、よすぎておかしい子を例にとって、子供の行動の異常は、母親との関係から出てくることが多いことなどが具体的に示されている。

11 社 会 的 行 動

〈指導〉 聖心女子大学 島田一男

●白黒

この作品は、(1)群れ行動(2)共感・暗示(3)同調行動(4)流行(5)群集・雑踏群集・集会の5項目から成り立っている。人間は、社会的動物であると言われている。つまり人間の行動は、社会生活を抜きにしては、あり得ない。この人間の集団的行動と個人の心理との、微妙なからみ合いを明らかにすることによって、社会心理学の基礎的な考え方を理解させようとするものである。鳥類や魚、そして人間の群れ行動の現れ方には、本能的、無意識的な行動にもそれぞれ共通性が見られる。共感・暗示の例としては、赤ちゃんのもらい泣きとか、大人のつられ買いなどがあり、ボディ・ランゲージなどは共感・暗示といわれるものがその基礎になっている。同調行動には、赤青の交通信号に従って人々が行動するものや、朝の出勤時間などにも現れる場合がある。……。

12 心 と 体

〈指導〉 大阪大学医学部第2生理学教室

●白黒

この作品は、まず自動車交通場面から導入され、交通場面の行動と生理的反応の測定、ネズミの脳内電極挿入法の3項目に分けて、生理学的心理学の発展の現状を概観しようとするものである。もっとも複雑な人間行動のひとつであるといわれる自動車の運転を取り上げ、運転中にみられる心と体の働きを調べるため、その呼吸運動、脈拍、眼球運動などの生理反応の測定をしている状況を示す。また、テレメーターをつけた被験者による運転適正検査の模様を描く。

さらに、動物の中で、体の構造や行動の仕方で、人間に最も似ているサルなどの霊長類の脳波を測定する方法や、心と体の関連をひとつの接点につなごうとする研究の一端を描いている。

13 心 理 測 定

〈指導〉 東京学芸大学 藤原喜悦
福島修美

●白黒

この作品は、心理測定の基本的な原則を知るため、(1)錯覚の測定(2)表情の測定(3)性格の測定(4)知能の測定の4分野を具体的に取り上げている。人間の外界を認知する場合、外的世界と、認知された主観世界との間に、ずれが生ずる。例えば線の長さ、重さなどの錯覚を行い、錯覚量の大きさを測定する。

人の表情は、その場その場に応じて変化する。例として、1人の女性の表情写真を使って、明るい表情から暗い表情まで、7種類の表情の明るさの程度を測定し、明るさ得点を算出する方法を描いた。知能の測定では実施場面を収録し、知能指数の求め方や意味について説明し、知能がどのようにして測定されるかを明確に描いている。

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp